

◆太宰治

小説家太宰治（本名 津島修治）は、明治42年（1909）6月19日、青森県津軽郡金木村（現 青森県五所川原市）に生まれました。「走れメロス」「津軽」「人間失格」など数々の名作を残し、昭和23年（1948）6月に39歳で早世しました。

◆船橋時代 昭和10年（1935）7月～昭和11年（1936）10月

太宰治は、短い期間ですが船橋で生活していました。太宰が千葉県東葛飾郡船橋町五日市本宿一九二八番地（現 船橋市宮本一丁目）の新築の借家に移り住んだのは、昭和10年7月1日、26歳の時でした。この頃の太宰は、盲腸炎をこじらせ腹膜炎となり、鎮痛剤パビナールによる中毒になっており、その療養のため、妻の初代とともに東京杉並の天沼から転居したのです。しかしパビナール中毒を断つことができず、症状を心配した家族が井伏鱒二に説得を依頼し、昭和11年10月13日に東京板橋の病院に入院しました。

このときの様子を太宰は次のように書いています。

以上挙げた二十五箇所の中で、私には船橋町の家が最も愛着が深かった。私はそこで、「ダス・ゲマイネ」といふのや、また「虚構の春」などといふ作品を書いた。どうしてもその家から引き上げなければならなくなつた日に、私は、たのむ！もう一晩この家に寝かせてください、玄関の夾竹桃も僕が植ゑたのだ、庭の青桐も僕が植ゑたのだ、と或る人にたのんで手放しで泣いてしまつたのを忘れてゐない。

（「十五年間」（昭和21年（1946））

1年3か月の船橋滞在でしたが、この間、「ダス・ゲマイネ」「地球図」「めくら草紙」「虚構の春」「狂言の神」などの作品を執筆。また、最初の短編集『晩年』を砂子屋書房から刊行（昭和11年（1936）6月25日）しました。

◆太宰治ゆかりの場所

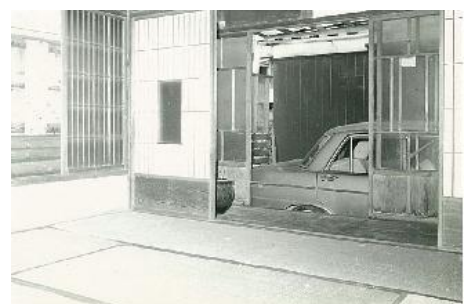
○ 太宰治旧居跡

借家住まいをしていた宮本一丁目の太宰治旧居跡に、石碑と説明板があります。



石碑銘文「太宰治旧居跡」

昭和61年（1986）6月16日建立



太宰旧居
撮影時期不明

《太宰治旧居跡説明板》

太宰治旧居跡

太宰治は、短い期間ですが船橋で生活していました。昭和10年（1935）7月、26歳の時に、東葛飾郡船橋町五日市本宿一九二八番地（現：宮本一丁目12-9）の新築の借家に移り住みました。この頃の太宰は、大学に落第し、自殺未遂を起こし、さらに、4月には盲腸炎をこじらせ腹膜炎となり、その鎮痛剤パピナル中毒を断つことができず、症状の悪化を心配した家族が、井伏鱒二に説得を依頼し、昭和11年10月に東京の病院へ移ることとなりました。

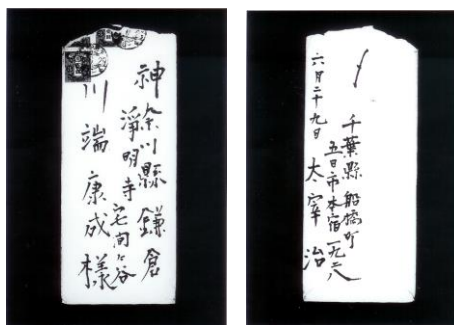
船橋在住の間、「ダス・ゲマイネ」「めくら草紙」「虚構の春」などの名作を世に送りしました。

後に、著書『十五年間』に、「私には千葉船橋町の家が最も愛着が深った」と記されているように、度々居所を変えた太宰にとって、船橋が特に思い出深い土地であったことが窺えます。

平成29年10月 船橋市教育委員会

川端康成宛芥川賞受賞を
懇願する書簡封筒
(昭和11年6月29日付)

所蔵 川端康成記念會



○ 夾竹桃と文学碑 【中央公民館前広場】

中央公民館前の広場に太宰の植えた夾竹桃と文学碑、説明板があります。

夾竹桃は、船橋町五日市本宿一九二八（現宮本一丁目）に借家住まいをしていた時に敷地内に植えられていたものです。

＊夾竹桃 昭和58年(1983)3月30日、
旧居より移植。

＊文学碑 昭和58年11月3日建立。



文学碑

夾竹桃

説明板

私がこの土地に移り住んだのは昭和十年の七月一日である。八月の中ごろ、私はお隣の庭の、三本の夾竹桃にふらふら心をひかれた。欲しいと思つた。私は家人に言ひつけて、どれでもいいから一本、ゆづつて下さるよう、お隣へたのみに行かせた。

(中略) 三本のうち、まんなかの夾竹桃をゆづつていただくことにして、私は、お隣の縁側に腰をかけ、話をした。

「めくら草紙」(昭和11年(1936))



＊文学碑

「十五年間」の一節が刻まれています。
「たのむ！もう一晚この家に寝かせて下さい。玄関の夾竹桃も僕が植えたのだ。庭の青桐も僕が植えたのだ。と或る人にしたのんで手放しで泣いてしまったのを忘れていない。」

○ 御蔵稲荷 【本町四丁目】

お稲荷さんの狐の石像が背景に写る船橋時代の太宰治の写真が残されていますが、そのうちの 1 枚は『晩年』の口絵写真になりました。写真は、船橋市本町四丁目の御蔵稲荷（みくらいなり）で撮られたものと伝わります。

※口絵写真は、本町一丁目の稲荷神社で撮影されたとする説もあります。



御蔵稲荷 昭和 47 年（1972）

○ 玉川旅館跡 【湊町二丁目】

太宰治が滞在したといわれる老舗割烹旅館がありました。宿泊費を支払うことができなかった太宰は、借金の形に本や万年筆を置いていったと伝えられています。太宰が置いていったとされる本と万年筆は、昭和 51 年（1976）の母屋の火災でなくなってしまったといえます。玉川旅館は令和 2 年（2020）に閉館し、建物は解体されました。

＊玉川旅館

大正 10 年（1921）年に料亭の営業開始。

平成 20 年（2008）4 月 18 日、国の登録有形文化財に登録。

令和 2 年（2020）に閉館し、建物は解体された。



在りし日の玉川旅館

○ 川奈部薬局 【宮本六丁目】

太宰が通っていた薬局。店舗は建替えられました。

太宰の長髪、着流しの姿が当時の船橋では見られない姿であった、などと当時の店主が語っています。



○ 九重橋

海老川に架かる橋（昭和 63 年 11 月 8 日完成）。太宰治旧居跡近く。

太宰治の肖像や年譜、「走れメロス」の一節、小説の一場面のレリーフが欄干に施されています。



太宰治の肖像や年譜、「走れメロス」の一節



「人間失格」のレリーフ

「此の橋は太宰治の昔し路」と刻まれています。
他に「もの思ふ葦」、「津軽」、「斜陽」、「地球図」、「富嶽百景」のレリーフがあります。

○ ゆかりの場所地図

